



朝西

「だが、今は車内に家電などを充実させ、長期の旅を楽しむ人が多いという。」

保有

すい点も注目されている。約20台を展示・販売する福岡県太宰府市の「ナッツ」

客が6〜7割を占め、シニア層や30〜40代も増えているそうだ。



「怠け」ではなく「逃避」

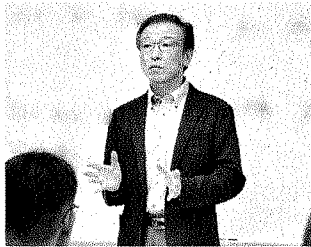
ひきこもりの支援 ⑤

全国で115万人以上とされるひきこもり。長期化を防ぎ、自立を助けるため、どんな支援ができるだろうか。

「娘に自分の価値観を押しつけてしまった」

福岡県内に住む50歳代の女性はそう悔やむ。娘(25)には、幼い頃からしつけのつもりで厳しく接してきた。高校卒業後の進路を決める際には、本人が希望していない短大を強引に受験させたという。

娘は一日も通わないまま短大を退学し、家にひきこもった。心配して「働きなさい」などと声をかけたが、反発されるだけだった。



家族会の参加者に当事者への接し方を語る中光さん(画像の一部を修整しています)

女性は数年間悩んだ末、ひきこもりの当事者や家族を支援する同県大野城市のNPO法人「地球家族エコロジー協会」に助けを求めた。カウンセリングを受け、家族会に参加。そこで「子は親の所有物ではない」と共に気付かされたという。

ルバイトも始めた。女性は「まだ親子の間に距離はあるけれど、娘と一緒に成長していきたい」と話す。

- ▽いつまでも解決を本人任せにしない。周囲に隠そうとして親は問題を放置しがちだが、親が行動することも大切
- ▽否定的な態度を取らない。本人の気持ちに寄り添い、不安や悩みに耳を傾ける
- ▽家事を手伝ってもらうなど、頼み事をすすめる。本人にお礼を言ったり、能力を認めたりするきっかけになる
- ▽家庭環境を安定させる。夫婦の不仲やほかの家族の情緒不安定があれば改善を試みる

中光さんが当事者の親に伝えて注意点を改善策

2005年に設立した同協会では、月に1、2回、家族会を開催している。理事長の中光雅紀さん(57)が、当事者の心理や適切なコミュニケーション方法などを解説する。親同士の座談会もある。

中光さんが参加者にまず理解してもらおうのは、ひきこもりは「怠け心」ではなく「危機からの逃避」ということだ。特に親が子どもの意見を尊重してこなかった家庭では、子どもは自信を育めない。学校や職場でつまづいた時に立ち直れず、周囲からの拒絶を恐れて安全な自室に閉じこもるといふ。

中光さんは「ひきこもりは家族の問題。家族と当事者の関係を見直すことが、改善につながるケースは多い。動けない本人の代わりに家族が動くことで」と力を込める。

NPO法人 地球家族エコロジー協会
0120-8700996

毎週月曜日に九州・山口の生活情報をお届けします。
〒810-8581 読売新聞西部本社社会部地域・生活課
ファクス: 092-715-5674、メール: s-townlife@yomiuri.com